

二億円、一八億円、三三億円と急増中。今年は拠点を関西から東京・札幌・福岡など全国九カ所に次々と開設したこともあり、前年比六〇%増の五五億円以上を見込んでいる。

山崎社長は、まだ三二歳の若さにもかかわらず、職歴は波乱に満ちている。高校卒業後、佐川急便に入社し、なんと二五歳で神戸営業所の所長に昇格した。ところが仕事で事故を起こし、多額の負債を抱えてしまう。会社を辞めて朝は大手スーパーの配送、昼は宅配便の集配、夜は路線便とがむしやりに働いた。そんな時、阪神大震災に遭遇。仕

事が止まり悩んでいる時に震災現場で飛ぶように売れている安売り携帯電話を見て、その利益率の高さに注目し、「モバイルランド」をオープン。朝は運送業をし、昼からはスーツに着替えて店に出るという二本立ての会社「ジャパンブリッジ」を設立した。運送業では、単に物を運んで終わりではなく、ドライバーと顧客のコミュニケーションを重視した営業に努めた。これが評判になり、佐川急便時代からの知り合いだった金型などの通販会社・ミスミが、無梱包・簡易梱包配送と客先の指定部署に配送する業務委託を依頼してきた。箱

ベンチャー・キャピタルの役割は新しい業種をつくること

日本テクノロジベンチャーパートナーズ ● 村口和孝

一九九五年八月、ネットスケープが纳斯达克に株式公開したことに強い衝撃を受けた。設立は九四年四月。それから一年四カ月で公開したのだからすごい。一二月の決算では五億円の赤字だった会社だが、時価総額数千億円という会社になったのだ。

当時、私はジャフコで、会社と衝突しながらも設立から日の浅い企業への投資案件をいくつもまとめ、アメリカのベンチャー・キャピタル（VC）に追いついたつもりでいたが、とんでもない話だった。既存業種に投資する日本スタイルではなく、「新しいセクター（業種）」をつく



るのがアメリカのVCだ。九八年にジャフコを辞めて、今のファンドを立ち上げた。堀場雅夫・堀場製作所会長など個人投資家の出資を得て、三・三億円の資金が集まった。すでに三社に投資したが、そのうち（株）インフォテリアは九八年九月に設立されたばかり。インターネットの次世代言語XML専業のソフト会社だ。私も同社の取締役として、戦略策定に加わる。技術の将来性と、創業者の能力が高いので、早期の株式公開が可能だと思っ。このような新たなジャンルを開拓するスタートアップ企業に投資し、経営を支えることこそがVCの本当の役割だ。（談）

を降ろして終わりとはいかず、手間がかかる。しかし、要求に応え切り、これを機に一気に売上げを伸ばした。九七年四月にはトヨタの無梱包配送のコンペに参加し、まったくの無名ながら受注を勝ち取る。それも佐川急便、ヤマト運輸、名鉄運輸という大手を抑えてのことだ。顧客対応が高い評価を受け、有力候補の地元・名鉄運輸すら寄せつけなかった。設立からわずか四年余りで、大手をも震撼させる業界の革命児として知られるようになった。山崎社長は、業界をあっという間に驚かせる新たな事業展開をいくつも温めているようだ。

技術設計に特化 製造業の復権に力

53位 イメージリンク

57位 日本パーキテック

工場を持たない製造業、いわゆるファブレス企業が増えている。生命線は無駄論、他のまねできない開発技術にある。大企業がコスト削減に迫られるなか、身軽で異能な彼らのビジネス・チャンスは大きい。五三位のイメージリンクはデジタルカメラの開発・設計を主に行なっている。設立は九五年。イメージリンクとは「画像をつないでいくイメージ」。そして世界に通用する名前



「価格武装した運送業」を旨とする山崎隆・ジャパンブリッジ社長

で考えたと茅野正澄社長は語る。東証一部上場のカメラメーカー、チノンを退職後、手持ちの資金をかき集めて、会社を興した。デジカメの熱心な旗振り役だった茅野社長のもとに、内山雅之氏（現イメージリンク取締役）ほか、チノン時代のデジカメの技術者が続々合流した。技術力には自信があるが、日本市場では長野の小企業など、なかなか相手にされない。活動の場を茅野はもっぱら海外に求めた。コンビュータ業界最大の展示会であるコムデックスとPMAに出展し、アメリカや台湾などのメーカーに食い込んだ。昨年発表した設計技術は、デジカメの開発期間を半分短縮する画期的なものとして評判になった。その技術力は世界水準にあるが、次の柱